



薫小だより

「気づき・考え・行動する 薫の子」



郡山市立薫小学校

学校便り No.21

令和7年 1月24日

文責：校長 齋藤 和彦

郡山市内教職員研究物展

- ◆ 令和7年1月24日（金）～1月30日（木）
- ◆ 郡山市中央公民館 【入場無料】
 - ・土曜・日曜 9：30～15：00
 - ・平日 13：30～19：00



- ・ 市内小中学校教職員が、授業力をみがき、スキルアップを図ろうと実践研究してきた「教育実践集」が展示されています。【薫小の実践記録も出品】

はじめに

私達は、子どもがまっすぐに課題に取り組み、自分の考えを多様な方法を駆使して表現し、仲間の考えや表現との交流を通して、その“よさを認め合う”ことにより、「学び方を学び」、「学んで得た成果」を自分のものとする『ともに学ぶ』～確かな学びをめざしてきました。“ともに学ぶ”..この姿は、本校の子どものよさであり、仲間同士のやわらかな関係性が強みとなって、効果的な学習形態の一つとなることを確認してきました。



～薫小研究物「はじめに」より～
◇研究物には、全22学級の実践のまとめが掲載されています。



「私、もうできちゃった!」「これはきっと、ぼくだけの考えだ!」と、やる気満々の仲間を横目に、「どうしよう..わからないよ。」「これでいいのかな..」～教室には十人十色の実態が机を並べます。(あたり前にある教室風景です)この中であっても、“ともに学ぶ”子ども達同士の関係性は、けっして仲間を独りにはしません。ペア・トリオ・グループで、互いに考えを伝え合い、そのよさを認めながら、自分の学びの成果を得ていきます。

本校の教職員構成は、明らかに若手とベテランの二極化が進行しています。この中でであっても、共同研究の共通項は、『やっぱり、授業って..楽しいものでなくちゃ。』

- ・ 算数のおもしろさを子どもに感じさせたい。指導者が本時における算数的おもしろさを感じているかが大切。教師のわくわくは子どもに伝わる。
- ・ 授業で大切なことは「学習の仕方を身に付けさせる」こと。教えてもらうときは、自分が次の人に教えられるようになるまで教わる、等のルール作りも学び方の内。受け身のままでいない学習スタイルの確立を。(◇森山先生のご指導を共有実践へ ※抜粋)

今年度は、本校前校長 森山道明先生に算数科における指導助言をいただきました。事前研究会や事後研究会の折々の、【授業とは】の原点に立ち返ったお話に、若手・ベテランなく皆が、明日の授業実践にわくわく感を増し、「その方法を試してみたい!」と..、なんだか自分の授業づくりが変わっていきそうな前向きな気持ちになっていくのでした。教職2年目の先生が、率先してパイロット授業に挑み、年間を通した実践を積みました。ブラッシュアップ方式の研究実践によって、共通の視点(研究の視点)から見えるものはもちろん、個々のキャリアから見える(観える)(診える)こと全てが、自己を高める糧となり、めざす教師の..あこがれの姿となって(魅えて)いたことと思います。研修主任のリーダーシップを核として、各研究部が機能し合い、全学級が授業を開き合っによりよい授業づくりをめざしてきた今年度の研究実践の一端が以下の頁にあります。私達のこの継続した努力は、きっと将来にわたって子ども達をしっかりと支える力となってくれるものと信じています。明日からまた、子ども達のためのよりよい授業をつくるために、私達も“ともに語り ともに学び続けて”いきたいと思っています。

令和7年1月20日

郡山市立薫小学校長 齋藤 和彦